

令和元年度

# 福井市公民館研究集会

# 福井市公民館館長・主事合同研修会

## 報告書



日 時 | 令和元年12月19日(木) 14:00 ~ 16:45

会 場 | アオッサ6階 研修室601

主 催 | 福井市公民館連絡協議会 福井市教育委員会

## 不死鳥のねがい（福井市市民憲章）



わたくしたちは 不死鳥福井の市民であることに誇りと責任を感じ  
郷土の繁栄と幸福をきずくため 力をあわせ 不屈の気概をもって  
このねがいをつらぬきましょう

実践目標（平成31年4月～令和4年3月）

1 すすんで 親切をつくし  
愛情ゆたかなまちを つくりましょう あいさつで ふれあうよろこび 深める絆

2 すすんで 健康にこころがけ  
明朗で活気あるまちを つくりましょう スポーツで 広がれつながれ 元気の輪

3 すすんで くふうをこらし  
清潔で美しいまちを つくりましょう ふるさとを 今よりもっと 美しく

4 すすんで きまりを守り  
安全で住みよいまちを つくりましょう たかめよう 交通マナーと 防災意識

5 すすんで 教育を重んじ  
清新な文化のまちを つくりましょう ふくいの魅力 学んで知って 広めよう

（昭和39年6月28日制定）

不死鳥のねがい（福井市市民憲章）推進協議会

## 目 次

○開催要項	・・ 1
○講師プロフィール	・・ 2
○講演概要	・・ 3
○ワークショップまとめ	・・ 8
○写真アルバム	・・ 10
○アンケート集計	・・ 11

## ◆ 開催要項 ◆

### 1 趣 旨

福井市の公民館は生涯学習課の公民館事業実施方針に謳われているように、創立期の理念、「まなぶ」「つどう」「むすぶ」を踏まえ、生涯学習の機会の提供、地域交流や地域活動への支援を提供して、時代のニーズに対応できる、また福井の特色をいかした多様な学習の機会を設けてきています。さらに学校や家庭、地域の連携を強化するとともに、社会教育団体の育成・支援を図り、地域の教育力の向上に寄与してきました。

21世紀に入り、福井市も少子・高齢化にともなう人口減少や災害の多発など、社会の大きな変化に直面してきています。また、人間関係の希薄化は、地域社会の「縁」的機能も弱めており、地域づくりとともに、環境・子育て支援・高齢者福祉・防災などの活動の拠点としての公民館の役割は高まってきています。さらに今後、地域課題解決型の地域教育(学習)、共生教育(学習)といった新たな理念が求められてきていると考えられます。

他方、令和2年度から施行される地方公改正に伴う公民館職員の任用や待遇、さらに人事評価制度導入といった新たな制度は、地域住民と培ってきた信頼関係や情報の蓄積(ソーシャル・キャピタル)を維持していくことと密接な関わりを持つだけに、世代交代が進む公民館職員の資質向上や働きがいの高揚に直結するものであり、これから公民館の機能の充実化にも影響を及ぼすと懸念されます。

こうした、公民館を取りまく状況を踏まえ、福井市公民館研究集会では、「公民館で創る地域の未来～地域がつながる魅力ある公民館づくりをめざして～」をテーマに、特定非営利活動法人教育支援協会理事長 吉田博彦 氏をお招きして、公民館の現在と未来を考える研修会を企画しました。講師の吉田博彦氏は、昨年度の第40回全国公民館研究集会東京大会のシンポジストを務められ、新しい時代に対応した公民館の姿について、深い造詣を踏まえて語られました。本年度は、第1部を講師に事前にお伝えした質問に答えていただく講演形式で開催し、第2部でグループワークを行い、気付きや学びを深め共有する場とすることを期待いたします。

テーマ 「公民館で創る地域の未来～地域がつながる魅力ある公民館づくりをめざして～」

2 日 時 令和元年 12月 19日(木) 14:00～16:45

3 会 場 アオッサ 6階 研修室 601

4 参加者 公民館職員（館長・主事） 142名

5 主 催 福井市公民館連絡協議会 福井市教育委員会

6 日 程 13:30～14:00 受付

14:00～14:10 開会行事

14:10～15:30 講演

演題：「令和の時代に公民館に求められる力～さらなる地平をめざして～」

講師：特定非営利活動法人 教育支援協会代表理事 吉田 博彦 氏

15:30～16:40 グループワーク

16:40～16:45 閉会

## ◆ 講師プロフィール ◆

よしだ ひろひこ  
**吉田 博彦 氏**

1952年 大阪府枚方市生まれ。中高と神戸で育ち、1976年早稲田大学法学部卒業後、海外子女教育、インターネット教育事業などを行う民間教育会社の経営にあたる。



1997年、「教育支援協会」の設立に参画し、99年、教育分野で最初のNPOとして経済企画庁（当時）の認証を受け、全国組織のNPOの代表理事に就任。「市民による放課後からの教育改革」を提唱し、文部科学省や教育委員会と協力して全国で社会教育活動をすすめ、放課後活動や自然体験活動等さまざまな社会教育事業をおこし、地域創生や地域教育力の再生に取り組んでいる。

3・11東日本大震災の時には、関東地区のNPOを各被災地に送り込むとともに、福島原発事故による放射線被害から子どもたちを守るために、ふくしまキッズ実行委員会を組織し、事務局長として支援活動に取り組んだ。

また、2003年に特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会専務理事、2015年に特定非営利活動法人全国検定振興機構理事長に就任し、英語教育の改革や大学入試改革に取り組んでいる。

### 過去・現在の役職及び主な公職

- |                             |               |
|-----------------------------|---------------|
| ■ 特定非営利活動法人教育支援協会 代表理事      | [1999年～現在]    |
| ■ 特定非営利活動法人小学校英語指導者認定協議会 理事 | [2003年～現在]    |
| ■ 中央教育審議会初等中等教育分科会専門部会 委員   | [2004年～2013年] |
| ■ 文部科学省放課後活動アドバイザー          | [2009年～2014年] |
| ■ 文部科学省熟議懇談会 委員             | [2011年～2015年] |
| ■ 公益法人日本英語検定協会 理事           | [2011年～2015年] |
| ■ 公益法人全国公民館連合会基本構想委員        | [2011年～現在]    |
| ■ 文部科学省コミュニティースクールマイスター     | [2012年～2016年] |
| ■ 特定非営利活動法人全国検定振興機構理事長      | [2015年～現在]    |
| ■ 文部科学省活力ある学校教育推進事業推進委員     | [2015年～現在]    |

### 専門分野

教育測定、社会教育

### 主な論文及び著作【共同著作を含む】

- 「子どもの思考力育成とマルチメディア学習環境」（明治図書：1986）
- 「マルチメディア活用の方法と実践」（明治図書：1987）
- 「どうする小学校英語」（アルク：2004）
- 「関心・意欲の低下をめぐって」（文部科学時報：2004）
- 「義務教育改革」（教育開発研究所：2005）
- 「コンクリートから子どもたちへ」（講談社：2010）

## ◆ 講演概要 ◆

本年度の研修会は「公民館で創る地域の未来～地域がつながる魅力ある公民館づくりをめざして～」というテーマで、NPO教育支援協会理事長の吉田博彦氏を招いて講演をしていただいた。＜社会教育の今日的課題を明確にする＞というメインテーマを掲げ、研修会の参加者から出された意見や質問を6つに課題化し、具体的な資料(事例・データ・分析)を踏まえた情報提供を行ったあと、参加者がグループワークでより深化させるというアクティブラーニングの手法を意識したかたちに構成された。グループワーク後、参加者から新たな話題が提供されることを意図したのである。

前半の話題提供の論点は次の通りであった。

- ① 人口減は地域のどのような力を弱めるのか～地方創生に向けた公民館職員等社会教育関係者及び行政職員の役割とは何か～
- ② 社会教育の役割～個人の趣味や興味を充実させることなのか～
- ③ 時代への適応とは何か～未来を見据えた公民館活動の方向性～

これらの論点から、地域がつながる魅力ある公民館づくりに向けての踏まえるべきそれぞれのポイントは以下の通りであった。

- ① 住民が自ら考えて地域をつくる意識を育てる。また地域おこしに取り組む。
- ② 自分の住む町を良き社会にしたいという市民の意識を育成する。  
人間同士の関係性を作り出すコミュニティデザインを演出する。
- ③ 主体的に多様な人と協働し、地域づくりをデザインする。

グループワーク後、再度吉田講師に意見を提出し、さまざまな意見の中から以下の話題が取り上げられた。

- 良きことをしたいという日本人の心性は生きており、＜縁＞関係があれば動く。人間関係を構築していく社会教育は今こそ公民館でも必要である。(地域が壊れていれば、学校や家庭はもろに影響を受ける。)
- 地域づくりにモデルはない。それぞれの地域に合った人と人とが繋がるしくみをつくる。コミュニティデザインを持つ。「気合い」とは、一人一人が絆を大切にし、構築していくこと。公民館はサポート一役になることも一案。)
- 急速に変化する時代の中で、公民館の役割は人と人がかかわる関係性を育むスペースにしていくこと。(人と関わる・人と話す。)

地域活性化の成功事例、日本人の持つ精神性、今日の地域や学校・家庭などの社会環境の状況などを紹介されるなかで、「<誰かがする・行政がする>という意識ではなく、一人でも、<俺がやる！>というやる気のある人が動いて、サポート一役とともに協働できる関係を生んでいくことが地域社会をつくる条件になり、また物事は変わっていくのですよ。」という言葉は、改めて公民館の役割を再認識する、また公民館職員を励ますメッセージになったと思われる。

変わり行く時代環境の中で公民館職員がどのような未来への展望を持ち、日々の職務に務めていくかを示唆する研修会になった。

# 公民館で創る 地域の未来

～地域がつながる  
魅力ある公民館  
づくりをめざして～

特定非営利活動法人 (NPO) 教育支援協会  
代表理事 吉田博彦

## 研修会のテーマと進め方

### ・メインテーマ

社会教育の今日的課題を明確にする

### ・進め方

質問に対する情報提供(80分程度)講師

グループワーク(40分程度)参加者×講師

課題の整理(20分程度)講師

## 新学習指導要領の目指す教育

■新学習指導要領が想定している社会と教育目標  
工業化社会から脱工業化社会、ポスト産業化社会に向け、確かに社会は大きく変わろうとしている。

その社会を担う人材育成が目標。

⇒だから学校教育が変わらなければならない

①知識・技能の確実な習得

②思考力・判断力・表現力

③主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度

## アクティブラーニング

## 意見や質問

今回の研修会に向けて参加者から  
50以上の中から  
それを整理してみた。

## これからの公民館の在り方

### 共通認識

■人口減にともない、地域を維持させていく力が弱まっていくことが想起される。

■そうした状況の下、町づくり、地域づくりが叫ばれているが、イベント開催などで活性化を図る従来の方法は限界を迎えつつあり、従来の指導者層の高齢化に伴う活動停止が続き、今後もその傾向が続く可能性がある。

### ■質問

その中で、今後さらに公民館が果たす役割が大事になっていくと思われるが、何をどう進めていくことが、今の公民館に必要なのか。

## 問題点の整理

① 人口減は地域のどのような力を弱めるのか

② 時代への適応とは何か

③ 地方創生における社会教育・公民館の役割

⇒館のコミュニティセンター化は何か問題なのか

⇒公民館としての絶対条件は何か

④ 生涯学習の基本とは何か

⇒地域づくりの場としての公民館と、教育事業を通しての学習の場としての公民館は両立するのか?

⑤ 公民館活動に関わっていない住民や団体にどのようにすれば興味・関心を持ってもらえるか

⑥ 未来を見据えた公民館活動の方向性

## 公民館職員の資質と役割

■社会教育士という称号はどのような扱いになるか  
■公民館職員としての資質とは何か?

■その資質が不足している場合の育成方法は?

■ベストな人間関係作りと注意すべき係わり方は?

■一人の主事が長く勤務していると公民館の風通しが悪くなるので、主事は長くても6年で代わる方がいいという意見についてどう思われますか?

■公民館というハード自体が旧態依然としており、人々が求めているものと行政側が求めている公民館の立ち位置に違いがありすぎる気がする。その中で公民館職員は自分たちの資質をどれほどまでにあげればよいのか?

## 問題点の整理

① 公民館職員としての資質とは何か?

⇒社会教育士という称号の問題

⇒公民館職員の専門性

⇒ベストな人間関係作りと注意すべき係わり方

② 一人の主事が長く勤務することの是非

③ 人々が求めているものと行政側が求めている公民館の立ち位置に違いがありすぎる中で公民館職員は自分たちの資質をどれほどまでにあげればよいのか?

## 寄せられた質問を私なりに課題化

- ① 人口減は地域のどのような力を弱めるのか。
- ② 地方創生推進における社会教育関係者及び行政職員の考え方や役割
- ③ 時代への適応とは何か
- ④ 地方創生における社会教育・公民館の役割、公民館としての絶対条件は何か。社会教育の目的は個人の趣味や興味を充実させるごとなのか? ⇒社会教育の果たす役割
- ⑤ 公民館活動に関わっていない住民や団体にどのようにすれば興味・関心を持ってもらえるか
- ⑥ 未来を見据えた公民館活動の方向性

## 論点①

### 人口減は地域のどのような力を弱めるのか

地方創生に向けた公民館職員等の社会教育関係者及び行政職員の役割とは何か

## 消滅可能性都市問題の考察1

- 青森、岩手、秋田、山形、島根の5県は「消滅可能性都市」が8割以上。
- トップの秋田は県内25市町村のうち24市町村が該当す



## 地方創生問題の現状

### ■地方に仕事を創り、安心して働けるようにする

⇒新事業・産業と雇用を生み出す地域イノベーションの推進  
⇒地域の歴史・文化、芸術、スポーツ等による地域活性化

### ■地方への新しいひとの流れを作る

⇒地域に誇りを持つ教育の推進  
⇒地域人材育成プラン（地方での高等教育の保障）

### ⇒この地域の最大問題

今後、大都市圏は急速な超高齢化状況に突入し、2025年に東京の75歳以上の高齢者は約200万人になる。

東京圏・関西圏の超高齢化は、福井県の多くの町が維持できないほど異常に多くの若年労働力をさらに吸収してしまう。

## 地域づくりの課題【例】人口増加策

### ■久繁哲之介氏（1962年生まれ）

- 専門家が推奨する成功事例のほとんどが、実は成功していない。稀にある『本当の成功』は、異国や昔の古い話であり、しかも模倣がきわめて難しい。
- 人口減少が激しい自治体ほど家賃補助のような経済支援による応急処置的な移住策を選択  
⇒経済的支援は、若い世代の誘引策としては効果が一時的で、持続的な定住策としては未知数
- ⇒過度に経済支援を行った場合、自治体の財政を悪化させ、かえって地域の弱体化に拍車をかける
- ⇒移住の呼びかけが過熱して自治体が人口を奪い合うようになれば、小規模自治体がさらに疲弊する

## 消滅可能性都市問題の考察2

■人口減少という前に、近代という時代が前の時代と比較してどれほどの人口なのかを知る必要がある。

■近代の「人口爆発」のツケが、私たち日本国民がこれからとの課題であり、人口減少で何故「地方消滅」が起こるのかという議論が必要である。



## 大正期からの人口推移

平成元年(1989年)	123,206,000
昭和59年(1984年)	120,305,000
昭和42年(1967年)	100,196,000
昭和31年(1956年)	90,172,000
昭和23年(1948年)	80,002,000
昭和11年(1936年)	70,114,000
大正15年(1926年)	60,741,000
明治 5年(1872年)	33,110,000

## 地方自治の2つの自治

●「が」と「か」では大違いという与太話  
⇒「俺がやらなくて誰がやる」というのが市民精神

⇒「俺がやらなくとも誰かやる」というのが住民根性

●日本国憲法の民主主義の基本である地方自治

⇒その2本柱である「住民自治」と「団体自治」  
「住民自治」は「俺がやらなくて誰がやる」が基本だが、中央からの交付金等の獲得合戦に明け暮れた「団体自治」は「俺がやらなくとも役所がやる」というような風潮を強くし、地方の中央依存を強くしてきた

⇒地方消滅の基本原因は税収不足による自治体の崩壊（ダ振市がその事例）

## 地方創生における産業振興と公民館

## 設立当初の公民館の大切な機能①



## 地域創生と地域おこし - Wikipedia

「地域おこし」とは、地域が経済力や人々の意欲を向上させたり、人口を増やしたりするために行う諸活動のことである。

### ■問題のまとめと対策

- 地元産業の衰退・雇用の減少  
⇒産業の立て直しによる雇用の創出や維持
- 人口の流出・減少  
⇒若者人口流出の歯止め。新規住民の呼び込み。子供のいる家族の呼び込み
- 地域文化の伝統の途絶  
⇒地域文化の担い手の確保と継承

## 藻谷浩介の指摘『ニッポンの地域力』

条件に恵まれて成功したケースもあるが、実情を把握せずに成功事例を表面上真似ただけで、固定観念にとらわれて地域おこしを行うと、政策を誤りかえって地域が衰退する

- 「リゾート地に観光客を呼び込めば地域が活性化する」×
- 「観光客が泊まるホテルを増やす」×
- 「交通が便利になれば地域は発展する」×（ストロー効果）
- 「娯楽施設を作れば若者が集まる」×（反面、治安悪化）
- 「工場を誘致すれば人が集まり、商店街も活性化する。」×（地元商店街では買い物もしないので、お金が落ちない）
- 「マンションやアパートを増やせば人口が増える。」×
- 「地域の製造業が活性化すれば、雇用も増える。」×

## 一般的に知られている地域産業振興

■買い物難民の支援する事業や、地域資源を活用し販路拡大、空き家を開放しU・Iターンを促進、婚活など多くの取り組みがある

### 具体的な例

- ①「神の子米」を作った石川県羽咋市
- ②「葉っぱビジネス」の徳島県上勝町
- ③サテライトオフィスの徳島県神山町
- ④「空き家から始まる商店街の賑わい創出」  
プロジェクトnanodaの長野県塩尻市

⇒公民館活動で有名な鹿児島県の「やねだん」



やねだん  
(鹿児島県鹿屋市  
串良町柳谷集落)



## 自治公民館長 豊重哲郎

鹿児島県鹿屋市串良町柳谷地区。地元の人は「やねだん」と呼び120世帯およそ300人が共存する、高齢化が進む典型的な中山間地域の集落。

### 行政に頼らない「むら」おこし

補助金漬けで行政に頼りぎりでは、集落の力を削ぐだけで、集落も人も育ちません。補助金に代わるものは汗。すなわち活動への参加です。幼児から高齢者まで出番を引き出し、地域活動に自主参加してもらうための土台づくりから始めました。集落民の一人ひとりが「レギュラー」で、やねだんには「補欠」はいません。地域活動では、できる人たちだけでやっては長続きしないし、感動もありません。

## 論点②

### 社会教育の役割

社会教育の目的は個人の趣味や興味を充実させることなのか?

## 設立当初の公民館の大切な機能②



## 昨年11月のある公民館大会でのこと

Q: 公民館活動と市民活動とのすみわけは?

A: 公民館活動の主体は地域住民であり、その意味では市民活動と一体的なものです。ただし、あくまで公民館は教育機関でありますので、公民館活動といわれるものは事業そのものが教育的目的を持っているもの、もしくは事業が市民活動の学習的な面を担うものに限られることになります、市民活動の方がその範囲は広いといえます。

◆昔から現在まで変わることのない  
社会教育とは何かが全く理解されていない

## なぜ社会教育は衰退したのか

### ①社会教育関係者の怠慢

1980年代に生涯学習の理念が打ち出された後、それを受けて社会教育が自己改革を怠った  
⇒社会教育終焉論争など不毛な議論

### ②無縫社会への理解不足と対応の遅れ

2000年前後の社会変化への対応が遅れた

### ③地方創生問題への鈍感さ

消滅可能性都市と指定された自治体の社会教育が一番反応が弱かった  
⇒“社会教育なんて役に立たない”と言われる時代

## 基礎知識の共有

### 民主主義の基礎としての 住民自治を担う 市民意識育成に向けた 社会教育の役割

## この問題の整理

### 自分の住む町を 良き社会にしたい 市民の意識の育成

男は稼いで半人前  
勤め果たして一人前  
【大阪商人の道徳】

## 「他人への親切行為」調査

チャリティーズ・エイド・ファンデーション (CAF)

### ■世界共通の3つの質問

- ①「面識のない人や、助けを求めていた見知らぬ人に手助けをしましたか?」
- ②「慈善団体に寄付をしましたか?」
- ③「ボランティア活動を行いましたか?」

1位 ミャンマー 2位 米国 3位 ニュージーランド  
4位 カナダ 5位 豪州 6位 英国 7位 オランダ  
8位 スリランカ 9位 アイルランド 10位 マレーシア

17位 ブータン 19位 タイ 20位 ドイツ

64位 韓国 102位 日本 144位 中国

日本は「寄付」64位、「ボランティアをしたか」46位

**学校・家庭・地域の連携協力**

■誤った地域認識 ■21世紀における認識

The diagram illustrates the shift from a traditional model where School, Family, and Community are separate entities, each with its own icon (school building, family, and community), to a modern model where they are interconnected through arrows labeled '協力' (Cooperation) and '連携' (Collaboration). This visualizes how the concept of community has evolved to include active engagement between different sectors.

**私の結論**

- 社会は成熟社会へと移行し、人と人の関係性は希薄になり、地域社会も「無縁社会化」している。
- 「地域」志向が強くなっているとは言われるが、その中であっても、**従来の地域共同体の再生**やそのイメージに基づく地域の再生や人づくりはできるはずがない。

⇒問題は・・・  
どうすれば、「しかるべき人間同士の関係性」をつくり出すことができるのか！  
⇒「人と人の関係性の構築」=社会教育  
**コミュニティーデザイン**

**コミュニティーデザインとは[1]**

50年前に使われ始めた「コミュニティーデザイン」

- 主にニュータウン建設の時に、互いに結びつきのない人々が集まって暮らす中で、良質なつながりを生み出すためにはどんな住宅の配置にすればいいのか、みんなで使う広場や集会所をどうつくればいいのかがテーマ

⇒初期のコミュニティーデザインの考え方

- 共同して使う場所があれば、きっと自然に人々の繋がりができるだろうという発想で、当時のコミュニティーデザインは住宅地を計画することを意味した

⇒ある地区を設定して、物理的な空間をデザインするこれがコミュニティーデザインだった

**コミュニティーデザインとは[2]**

この1970年代から50年間の無縁社会化の進行

- この国の無縁社会化は住宅や公園の物理的なデザインを刷新すれば人と人の関係性が生まれるという類の問題ではなくなっている。
- 僕（山崎亮）の興味が建築やランドスケープのデザインからコミュニティ、つまり人の繋がりのデザインへと移っていたのはこんな問題意識があったから
- 建築やランドスケープのデザインに携わりながら、**「それだけでは解決できない何か」**が少しずつ見ええてきて、それが僕の中で無視できない大きさにまで膨らんできた

⇒人がつながるしくみをつくる=コミュニティーデザイン

**設立当初の公民館の大切な機能③**

The illustrations show various functions of a community hall, including:
 

- 農業生産活動
- 社会的活動
- 文化芸術活動
- 生涯学習活動
- 福祉活動
- 郷土振興の機関
- 地区連絡機関
- 情報発信機関

 A specific illustration of a person working in a field is circled in red.

**論点③**

**時代への適応とは何か**

未来を見据えた公民館活動の方向性

**未来想定 社会の変化（1）**

■就業人口の変化

農林水産業	製造業
1960年代⇒約30%	1960年代⇒約40%
1970年代⇒約18%	1970年代⇒約30%
1980年代⇒約12%	1980年代⇒約30%
1990年代⇒約10%	1990年代⇒約25%
2000年代⇒約7%	2000年代⇒約20%
2010年代⇒約4%	2010年代⇒約18%

**大都市部において2030年代までに現在の職業の約60%がなくなる**

**危惧されること**

**今回の教育改革の目的 単なる学力向上策は地方を消滅させる**

**近代学校教育制度の目標と結果**

**忠実な兵隊 勤勉な納税者 工場労働者創出**

The diagram shows the goal of modern school education: **教育内容の現代化** (Modernization of educational content). It maps this goal onto three stages of life: **6歳** (Age 6), **18歳** (Age 18), and **30歳** (Age 30). The vertical axis represents the progression of life, and the horizontal axis represents the stages of education and social development.

**新学習指導要領の目指す教育**

■新学習指導要領が想定している社会と教育目標  
工業化社会から脱工業化社会、ポスト産業化社会に向けて確かに社会は大きく変わろうとしている。  
その社会を担う人材育成が目標。  
⇒アクティブ・ラーニング「主体的・対話的学び」

- ①知識・技能の確実な習得
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体性を持って多様な人と協働して学ぶ態度

⇒多様な人々との協働 **社会教育との連携**  
小学校からの**英語教育**と**プログラム学習**などの支援

## ◆ ワークショップまとめ ◆

### ■ テーマ① 講師への質問

#### 「気合」について

- ・「気合」は誰の気合か。（職員か、地区住民か）
- ・「気合だ！」と声をあげ、リードしていくのは誰が一番よいか。
- ・気合の入れ方をどうすればよいか。
- ・地域の人への意識改革（気合）を促す良い方法があれば教えてほしい。
- ・気合を持続させていくには。

#### 地域住民（団体）との関わり方について

- ・世代間の意思疎通を図るにはどうすればいいか。
- ・若年・中年層を公民館活動に呼び込む方策は何かあるか。
- ・地区の将来像を叶えるためには、一地区民として動くべきか。または公民館職員として動くべきか。
- ・人間関係作りにおいて注意すべき関わり方を知りたい。
- ・館長や主事だけが気合を持っていても、協力してくれる住民がいなければ難しい。どのように巻き込めばよいか。
- ・現状を踏まえると最先端を走るのは難しい。受け継ぐべきもの（祭り、伝承行事など）を大切にする中で人間関係を作っていく、人と人をつなげていくことも重要ではないか。
- ・自治会や各種団体とはどこまで関わればよいか。
- ・ひとつづくりからまちづくりにつなげるためには、公民館長を含むキーマンを探し、人間関係を作り上げることが大切である。どのように働きかけたら向上心を持つ団体を作れるか。

#### 公民館活動について

- ・昔の良さへ戻ることはできない中で、現代の核家族や無縁社会の中での良さと、それを生かした公民館作りや活動を教えてほしい。
- ・公民館で地域おこしの一つとして営利活動を行ってよいか。営利活動の方法を教えてほしい。
- ・公民館として具体的に何をしたら良いのか。
- ・集まりにくい現役世代の意見を集める手段として有効と思われるものを教えてほしい。
- ・高校生を活用する切り口や成功する秘訣があれば教えてほしい。
- ・SNSを使った情報発信や収集は強く推し進めた方がよいのか。

#### 人材育成について

- ・サブリーダー育成をどうすればよいか。
- ・理想的な公民館職員の人事評価とは。
- ・若手主事の人材確保が必要。（プロ意識を持って勤務するためには今の職員体制では無理なのでは）
- ・主事の入れ替わりが激しい原因は何か。

## 事例について

- ・先生が実際に携わって成果を上げた実例を教えてほしい。
- ・都会の公民館は、どのような活動をしているのか知りたい。（福井市と同じ様なことで悩んでいることもあるのか）
- ・他の国で社会教育に関するカリキュラムを持っている国はあるか。

## その他

- ・無縁社会化を解消するために何か必要なのか。
- ・地域のリーダーから学ぶ機会がない。
- ・地域愛を伝える手段は何か。
- ・大人が頑張る姿を見せていくだけでは、若者（子ども）を引き留めるのは無理。都会に出たら、戻ってくる策があるだろうか。
- ・公民館には特色があるので、一律に縛ることなく、広く対応が必要である。物事を一方的に見るのではなく、多様に見る訓練の仕方があれば教えてほしい。
- ・行政に頼らず、地域の文化的レベルを高めるためにはどうしたら良いか。
- ・地域の将来を見据えた計画を立てても、会計年度任用制度になり一年毎の更新だと、不安が先に出て最後まで責任を持って進められない。福井だけでも採用基準を変えてほしいがどうしたらよいか。

## ■テーマ② 感想（心に残ったワード）

- ・何でも役所に持つていっても何もしてくれない。何もかも補助でしようと思つても何もしてくれない。（浜茶屋経営、リゾット米の育成・販売など）
- ・「カフェ」は人をつなぐ。
- ・福井の公民館は現状で満足している。良いといわれたのは1950年代。今は特に何もよくな。
- ・役立とうという意識がないと公民館はなくなる。
- ・人と人の関係性を創ることの重要性
- ・地域を真剣に愛することが大切
- ・住民の意識が変わらなければ何も変わらない。公民館がサポーターになる。
- ・教育事業は教育そのものではなく、仲間作りが大切。
- ・6年で変わったほうがいいのかという質問に対して、同じ館にずっといるのは良くないとの意見があつたがそれはなぜか。
- ・日本の人口減少は「あり」だが、人口の都市集中は良くない。
- ・地区事業と教育事業は両立ではなく、つながるもの。つながる中で生まれる。
- ・地区の方が望んでいるものと公民館がしたいことがちがう。商売をする場所であり、住んでい
- る場所ではない。
- ・ずっとダメだしされていた気持ち。一主事に何ができるか。

## ◆ 写真アルバム ◆

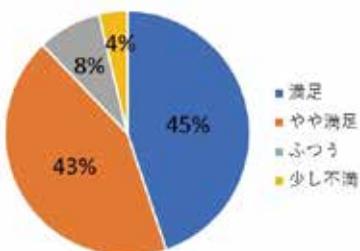


## ◆ アンケート集計 ◆

回答数 107名

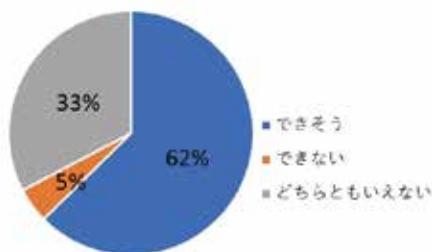
1 今回の研究集会・研修会についての印象はどうでしたか。

満足	48
やや満足	46
ふつう	9
少し不満	4
不満	0



2 今回の研究集会・研修会の内容は、今後の活動に活かすことができそうですか。

できそう	67
できない	5
どちらともいえない	35



3 今後、どのようなテーマや講師を希望しますか。

### 〈テーマ・内容〉

- 今回の様な心にひびく研修ならつづけて受けてみたいです。
- 本日のように悩みや困った質問に答えていただける研修。
- 公民館で「人と人との関係を作る場」を作るには、どのような事業をすると良いのか？  
事例発表を聞きたい。又、継続事業も聞きたい。
- 玖波公民館のカフェ立ち上げまでを聞いてみたい。（人が集まる公民館）
- 自治会や各種団体との具体的なかかわり方等を、例を出して教えていただきたい。
- 独居老人や若者のひきこもり、老老介護など、社会問題が深刻化する中での公民館のあり方。
- 実際に街づくり等、活動された経験などを体験者の話を聞いてみたい。（失敗、苦労話）
- 社会教育とコミュニティセンター化との狭間！住民はどちらを重要視しているのか？
- メンタルコーチングなど自分のストレスや人付き合いに役立つものが希望。
- 福井の現状に即した、（例えば雇用問題）等のお話。
- 「公民館とは～」から離れたテーマで希望。
- 公民館の抱える問題、不満など本音の部分を吐き出せる、気持ちを軽くしてくれる場の提供。
- 急激な時代変化に対応するには成功例を聞いて元気をもらいたい。
- 子供から老人まで各世代と上手にコミュニケーションを取れる方法。
- 主事と地域住民との関係性の作り方、主事同士の関係性の作り方。
- 公民館主事のモチベーション。
- 自分の苦手分野を克服できる研修。 ●SNSに関する講習。

### 〈講師〉

- 吉田先生素晴らしかったです。別の話も聞きたいです。
- コミュニティーデザイナー山崎亮氏の講演を聞きたいです。
- 池上彰氏の公民館の全国大会で話された内容を生で聞きたい。
- 館長や主事の勤務経験者から「公民館、館長、主事の役割とは」について聞きたい。

## 〈研修の持ち方〉

- 公民館についてよくわかっている講師から、年に1回話をきくことは大切だと思います。
- 福井市の公民館は1つ1つを取り上げると非常に評価が高いですが、横のつながりや他地区、他ブロックの関わりは低いように思う。福井的なアクティブラーニングを知りたいです。
- 講師をよんでの講義ではなく、自分たちの知識を豊かにするような企画がほしい。
- 講義が長いので、話し合う時間が長い方がいい。

## 4 その他、御意見、御感想をお書きください。

- 明日からの公民館業務の中で活かせること、新年度から意識していきたいことなど、実践に繋がる話が聞けて良い講演でした。
- ふだん、思っていたことを、しっかり言葉にして聞かせてもらえたので、満足できた。特に、関係性の話は大変有意義であったし、実践していきたい。
- 最初からあきらめてしまわずに「気合い」を持って、まず一步をふみ出して行きたいです。
- 福井の公民館は優秀だと聞かされ自分も思っていたが、情報が集まらないとか、次代を担う人材が育成できていない事を考えたら、それは「おごり」だと感じました。
- 非常に内容のある研修でした。具体的なアドバイスは各館の環境にも違いはあると思うが、人と関わる力をさらに伸ばしたいと思います。
- 社会変化をどうとらえるか？公民館の今後ははたして気合だけで続いていくのだろうか？なる職種の中に公民館主事も含まれているのかと心配になってしまふが、地域コミュニティを作ることが私達の仕事だと思っているので、人間関係をこれからも大切にしていきたい。
- 公民館職員の役割、地域活性化の旗振り役として活躍する為には、事務処理手続きの所は簡素化するか、事務専門職が必要かも？両立出来る人はいると思うが、その様な人ばかりでない。
- 社会教育というものが何となくわかった気がします。「人と人の関係性の構築」大切にしていきたいと思います、難しいですが…。コミュニティデザインという言葉が印象に残りました。
- 地域そして日本の将来を担っている仕事のような気がして、気が重くなりました。明日にでも辞めたくなりました。気合！を上げるのは自分…。大丈夫かな？大変です。10年後を見すえて仕事をするのなら、10年は継続して勤務できる保障をしてください！！
- 自身が今している仕事など、間違っているのかなと不安になる部分も多々あり、戸惑いました。
- 公民館主事にコミュニティデザインをさせるのは荷が重いと思いました。
- 公民館主事としての自分の力不足、無力さを痛感する研修でした。質問時間は面白かったです。
- 本日の講演は、自治会や各種団体のみなさんにも聞いてほしい内容だったと思う。
- グループで話し合い、課題を共有し、先生に質問する今回のような形式はとても良かった。
- 他館同士の方と話す中で思いを共有できる部分がありよかったです。
- グループワークで一言も発することができず、かなり残念でしたが、他の公民館の館長・主事さんのご意見を聞いていて参考になる部分もありましたが、自分自身の考えを伝えて聞いてもらい意見をもらえなかつたので（時間の都合上）すごく残念でした。
- 玖波公民館の主事の場合は好きにしていいという条件でやっているが福井市の公民館では出来るとは思えないです。公民館はサポーターになれば良いと言われましたがやりたいと思う人がいません。やりたいと思う人を育てるにはどうしたらいいでしょうか、ただ人との関わりを大切にしていこうと思いました
- 社会教育について知ることができました。“全世代が集まらないとお茶の間ではない”という言葉が印象に残りました。

## 福井市公民館連絡協議会 研修委員会

### 【館 長】

中村 準  
塚谷 直人  
佐々木 昭博  
内田 建一  
山口 藤章

### 【主 事】

伊藤 和美  
黒田 幸江  
南部 恵  
青木 加寿子  
森國 和代  
塙崎 めぐみ

### 【生涯学習課】

岩佐 誠

2020年3月発行

発行：福井市公民館連絡協議会 福井市教育委員会

